

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	教育委員会
	課名	指導課
	係名	指導係
	記入者	斉藤 陽枝
	電話(内線)	628

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	<b>継続</b>	(2) 事務事業 の名称	計画 学校図書館運営事業	(3) 事業の 優先度	<b>A</b>
			予算 学校図書館運営事業費		
(4) 総合計画での位置づけ			(6) 事業主体	市	
① 事業の区分	<b>主要事業</b>	(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質	一般事業費(ソフト事業)
② 施策コード	41108 (総合計画掲載ページ 104 ページ)	会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	4 未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)	財源区分	市単独		
基本施策	1 生きる力を育む教育環境づくり(学校教育)	予算科目	款 10 項 2 目 1		
施策	教育内容の充実	予算書上の 事業名称	学校図書館運営事業 (予算書 155 ページに掲載)		
施策内容	学校図書館の運営	(8) 事務分類	自治事務		
(5) 事業期間	開始 平成 5 年 4 月から 終了 平成 28 年 3 月まで ( 24 力年)	根拠法令	結城市子ども読書推進計画		

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象者(だれを・何を)	市内小学校の児童及び教職員	(3) 事業内容(具体的に何をを行うのか、そのために何をを行うのか)	結城市子ども読書推進計画に基づき、各小学校に司書を派遣し、図書の貸出・返却及び整理保存を行い、必要に応じ授業にも参加し、児童及び教職員の読書活動を支援する。
(2) めざす姿(どのような状態にしたいのか・意図)	児童は読書活動を通じて言葉を学び、想像力を豊かにする。児童が読書に親しむ機会をより多く提供し、児童が読書に対し関心を深めるとともに、望ましい読書習慣を身につけさせたい。また、教職員が授業で積極的に学校図書館を使い児童に読書活動を広げられるようにする。	<p>■ 事業の全体計画(※計画等がある場合、H24年度末時点で記入)</p> <p>・ 総事業費 千円 ・ 進捗率 %</p>	
(4) 事業開始のきっかけや市民・議会の要望や意見、他市の状況など(※1-(8)事務分類 法定受託の場合は、記入必要なし)			

3. 事業コスト及び改善措置

行政評価	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映	
実施計画				
● 予算内訳	実績・決算額(千円)	予算額(千円)	計画額・見込額(千円)	
	24 年度	25 年度	26 年度 27 年度 28 年度	
事業費	事業内容			
(1) 事務事業費の コスト	報酬	10,347	10,257 10,257 10,257 10,257	
	賃金	5,177	5,004 5,004 5,004 5,004	
	需要費	375	353 353 353 353	
	役務費	78	60 60 60 60	
	委託料	528	419 419 419 419	
	使用料及び賃借料	2,681	3,961 3,961 3,961 3,961	
	備品購入費、負担金補助及び交付金	1	1 1 1 1	
	合計	19,187	20,055 20,055 20,055 20,055	
	財源	国庫支出金(千円)		
		県支出金(千円)		
	地方債(千円)			
	その他特定財源(千円)			
	一般財源(千円)	19,187	20,055 20,055 20,055 20,055	
	合計(千円)	19,187	20,055 20,055 20,055 20,055	
	補助・起債制度名			

(2) 平成25年度以降の改善・改革点(※ 記入の必要なし)

学校司書の研修や情報化など、今後も学校図書館の整備・充実を図っていく必要がある。

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
指標の名称		単位						
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
実施内容	学校司書数	目標値	人		9	9	9	9
		実績(見込)値		9	9			
	週派遣回数	目標値	回		4	4	4	4
		実績(見込)値		4	4			
(2) 成果指標（事業実施による施策指標の達成度）								
施策の指標	年間貸出冊数	目標値	冊		160,000	165,000	170,000	175,000
		実績(見込)値		150,000	160,000	165,000	170,000	175,000
		達成率		85.7 %	91.4 %			
	1人あたりの月平均貸出冊数	目標値	冊		6	6	6	6
		実績(見込)値		6	6	6	6	
		達成率		100.0 %	100.0 %			

5. 事業評価

(1) 平成24年度の行政評価結果をうけて、平成24年度に取り組んだ改革改善点について記載してください。

平成23年度から、市内小学校9校に学校司書を1名ずつ派遣することができている。学校図書館システムの老朽化に伴う新システムの導入を完了した。今後、ゆうき図書館とのネットワークの構築と中学校への導入を検討し、さらなる学校図書館の活性化につとめたい。

評価項目		評価の指標	客観的評価点及び評価理由
1. 目的妥当性		①事業の必要性,緊急度は高いですか？	5 ますます必要性は高くなっている(または、緊急性が極めて高い)
		②行政が実施すべき事業ですか？	5 行政以外には実施できない事業である
		③受益者が特定の個人や団体に偏っていませんか？	5 広い範囲に対して便益が提供されており、偏りは見られない
15	A	補足	
2. 効率性		④事業の手段(やり方)は適切ですか？	4 現在のやり方が一般的であり、特に問題はない
		⑤コスト効率,人員効率は高まっていますか？	4 効率は徐々に高まっている(コストは徐々に下げられている)
10	B	補足	
3. 有効性		⑥活動指標, 成果指標は達成されていますか？(指標達成度)	5 目標以上の達成度である
		⑦事業の成果の進捗は順調ですか？(進捗度)	5 計画達成
		⑧事業のめざす姿は基本施策の目標達成に貢献できますか？(貢献度)	5 基本施策への効果が高く、基本施策全体をより効率化できる
15	A	補足	
4. 総合評価	40 / 40	事業全体について評価し,問題点,課題等を指摘してください。 学校図書館は、子どもたちの読書活動を推進し、読書の習慣を身に付け、豊かな心を育むための重要な役割を担っているため、学校司書の研修や情報化等、今後も学校図書館の整備・充実を図っていく必要がある。	
[5×8項目]			
5. 対応策・提言等	この事業をどのように改善・改革をしていきますか？		
	平成25年度 [事業実施段階 における改善点]	学校司書の研修や情報化等、今後も学校図書館の整備・充実を図っていく必要がある。	
	平成26~28年度 [今後の事業見込 による改善点や 改革点]	学校司書の研修や情報化、中学校への導入等、今後も学校図書館の整備・充実を図っていく必要がある。	

6. 事業の方向性判断		
評価主体	25年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)	注)記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)	9名の学校司書の雇用形態が統一されていないため、給与の差による不公平感や夏季休業中に作業ができない等の問題がある。臨時採用職員の処遇改善が必要である。
(3) 最終評価 企画調整会議において 評価を行う		上記評価のとおり